

# 社会的認証システム－第三者認証(ステップ3)レビューシート

団体名: 特定非営利活動法人 芦生自然学校

訪問調査日: 2012年10月2日(火)

評価大項目(分類)	評価中項目	絶対評価コメント	達成率
I. 組織ミッション(社会的使命)と事業の推進	[1]組織ミッション(社会的使命)の確立	組織ミッションは定款をはじめ、ホームページ・パンフレットに明記されており、非営利組織としての位置付けや公益事業の実施状況が、事業終了報告書や決算報告書、パンフレット等からも多様に確認できる。	20/24 達成率 83%
	[2]組織ミッションと事業の策定	中長期的なヴィジョンについてのイメージは聞き取ることができるが、文章化する等明確には策定されていない。事務局会議→理事会→総会と組織的なコンセンサス(合意形成)により、事業計画が策定されている状況を理事会資料等からも確認することができ、ホームページも積極的に公開されている。	
II. 組織と経営管理	[1]意志決定機関とガバナンス	理事会・総会は直近の議案書からも適切な開催状況が確認できる。組織図・職務分掌規定を作成され、理事会の意向に基づいたガバナンス体系が確認できる。法人運営上必要となるコンプライアンスの把握を行い、「コンプライアンス規定」に基づいた運営成果が一定程度見受けられる。法人の経営環境は適切に把握・管理されており、監事による内部監査が実施されている。	29/43 達成率 67%
	[2]適切な財務計画と執行・管理	財務に関する経営計画書は確認できない。「会費収入」「事業収入」「助成・寄付収入」等、多様な財源を確保されている状況が伺える。納税等は納税証明書からも適切に行われている状況が確認できる。	
	[3]職員と労働環境	労働環境に関する規定は確認できない。法定福利厚生以外にも懇親を深めるための取組み状況を聞き取ることができる。職制に関する規定を作成し、管理・運用に努めている。多様な研修会への参加状況が確認できる。	
III. 事務局の執行体制と管理	[1]組織・事務局体制の確立	事務所機能は明確であり、決められた時間帯において、いつでも電話・来所対応が可能になっている。(月～木、8:00～18:00) 登記事項の更新、所轄庁への報告等、必要な手続行われている状況が確認できる。	29/31 達成率 94%
	[2]会計全般	経理に関する管理規定を策定し、適切に運用されている状況を確認することができる。専門的な知識については、NPO会計支援センターのアドバイスを受けている。	
	[3]事業を推進するための体制やルール	ホームページ・総会議案書から単年度事業計画にもとづいた事業が遂行されている状況が確認できる。稟議・起案書等事業を執行する際の手続きは確認できないが、月2回の会議での審議による事業実施の他、成果報告や事業評価が行われている。アウトドアのネットワーク体「JON」に事故等の報告を行い、全国規模での分析・レビューが行われ、PDCAサイクルが機能している。	
IV. 社会資源の活用	[1]社会資源(企業/行政/市民など)の連携と活用	ボランティアとして、龍谷・立命館・京都産業・京都女子大学をはじめ、社会人の受入れ実績を聞き取ることができる。「関西自然教育ネットワーク」や京都市内の児童館との協働実績が確認できる。美山産官学公連携協議会景観保全プロジェクトに参画し、「美山川クリーンリバー作戦」を実施している。	12/16 達成率 75%
V. 情報の公開と社会的信頼	[1]情報の公開	組織情報はホームページやパンフレット、facebook、公益活動ポータルサイト「きょうえん」等多様に公開されており、フロー情報もホームページで随時更新されている。	14/18 達成率 78%
	[2]第三者による評価	「子ども夢基金」他、多様な助成金の給付を受けている実績が確認できる。活動状況が、「山と溪谷社」や京都新聞、佛教大学通信等で紹介されている。	
VI. 組織のリスクマネジメントと社会的責任の追求	[1]組織のリスクマネジメント	書類の保管・管理については規定が策定されている。データ管理は、PCのパスワード設定やハードディスクへのバックアップがおこなわれている。保険の加入等、組織特有のリスク対応について一定度の取組み状況が確認できる。「安全管理マニュアル」の研修会に参加している。	14/18 達成率 78%
	[2]組織の社会的責任の追求	南丹市美山エコツーリズム推進協議会に参画する他、キャンプ場への水力発電等、自然エネルギーの導入を行い、継続的な取組みが顕著に見受けられる。	

## 【相対評価(セルフレビュー)／総括コメント】

当法人は、京都北部最大の河川である由良川の最源流地域を主な活動のフィールドにして、理事長を始めとしてほとんどのスタッフが地元である美山町に暮らし、地域に根差しながら生活しています。その暮らし・文化・遊びの中から生まれてくるプログラムを提供することを重要なテーマとしています。自然や山間地の暮らしを断片的に取り出して見せる(体験してもらう)だけでは伝わるものは多く得られません。様々な活動を一貫して経験し、個人と社会、それらを取り巻く自然の「繋がり」を感じてもらうことが、個々人の成長と、それを保証する社会の発展にとって大切なことだと考えています。

事務局としては、イベントプログラム開催時のみならず、そこに至る過程と事後の反省を共有するように心がけています。理事長以下4名の理事が事務局に参加し、方針作成や実務に積極的に参加するようし、これまでの経験を下の世代に伝えることを重視し、厳しさを交えながらも、年代を超えて忌憚のない意見交換ができるような雰囲気作りを心掛けています。また、地域の中で当法人の活動に関わっている人々とも日常的に交流を図り、私たちの活動について理解を得ること、良い協力関係を築いていくことを心がけています。

当団体単独ではなく、地元の関係業者や地域外諸企業・団体との共同の中で、美山町全体の受け入れの枠組みを整え、修学旅行生や企業職員研修業など、より広い受け入れを進めます。同時に、活動を担うスタッフを質量ともに増強し、UターンやIターンの人たちを受け入れられるような組織基盤、ひいては地域基盤作りにも力を入れていきます。由良川の水源として求められる環境を守っていくには、そこに伝統を生かし発展させる里山の集落が存続し、豊富かつ有能な人材が生活することが不可欠です。これ以上失ってはならない自然の価値をしっかりと認識することができる人材の育成を役割として認識しています。

本法人は、美山町を活動フィールドに実践的環境教育・体験活動を提供する団体として、その活動実績を明確に確認することができます。地域特性の中に活動の実態を根差しながらも、全国的な同種活動ネットワークにも積極的に参画し、情報収集や安全管理体制の強化にも注力をされています。規定やマニュアルの整備にも積極的に取組まれ、組織運営の推進を図られています。中長期的な視点における成長ヴィジョンについて、今後いかに明確にしていくかが課題として見受けられますが、今後も組織ミッションの実現にむけて発展的に取組まれることを期待できますので、本社会的認証システム－第三者認証(ステップ3)において認証しました。

118/150  
総合達成率  
79%

